

主題名 「家族の一員として」 (第1学年 C-14 家族愛、家庭生活の充実)

■本事例のポイント

1. 学習支援アプリを活用し、生徒の考えを可視化することで、話合い活動に目的意識をもたせた。
2. 生徒自ら問い合わせ立て、関心のあるテーマを選択することで、自分事として学習に取り組む姿勢を育むことを目指した。

■ユニット学習の目標

「家族の一員としてよりよく生きるためにはどうしたらよいか」という問い合わせを基に、自分が考えた問い合わせ立て、他者との対話を通じて、家族愛に対する考え方を深め、家族とよりよい生活を築こうとする実践意欲を育む。

* ユニット学習…テーマに基づいた複数の価値を関連付けて、複数時間で小単元化して構成する授業方法

■ユニット学習の指導計画（2時間）

第1時 「黒い弁当」

- ・物語の出来事を様々な立場で考える。
- ・心情メーターで考え方を可視化する。
- ・可視化した考え方を基に交流する。
- ・生徒の意見を拾い、全体共有する。
- ・気付いたことや感じたことをまとめる。

第2時 「黒い弁当」

【ねらい】

日常生活から生まれた問い合わせについて考え、話し合う活動を通して、家族に対する愛情や尊敬の念を深め、家族への思いやり、家族のためにできることを積み重ねていこうとする意欲を育てる。

- ・第1時に選択した問い合わせについて考える。
- ・同じ問い合わせ、異なる問い合わせそれぞれの考え方を共有する。
- ・2時間を通して感じたことをまとめる。

■本時の概要

【ねらい】

弁当を捨てた（捨てられた）事象について、「当時の私」「祖母」「今の私」の立場から考える活動を通して、家族それぞれに思いや考えがあることに気付き、今まで自分に注がれてきた無私の愛情に感謝し、家族を敬愛し、大切にしようとする心情を育む。

【問い合わせの設定】

- A 家族なのにイライラしたりケンカしたりしてしまうのはなぜだろう？
- B なぜ家族は私のことに口うるさく言うのだろう？
- C ご飯の準備が終わっていないのに「ご飯できたよ」と言ってくるのはなぜだろう？
- D 私のお願いを祖父母はすぐに「いいよ」と言ってくれるのはなぜだろう？

生徒が自分事として捉えられるよう、事前アンケートや生徒との意見交換を基に生徒の言葉から問い合わせを設定しました。

問い合わせをもつ

■問い合わせ

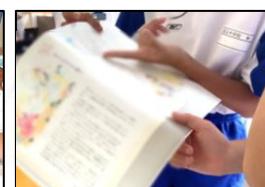
■お問い合わせ

■お問い合わせ

考える



交流



全体共有



■学習調整をしている子供の姿

選択した問い合わせ人間理解につなげる

字ひの前に… そのあなたの… かからまんまりえんりてかからりくないからライライしゃくしやうじ
家族たからまんまりえんりてかからりくないからライライしゃくしやうじ
トートアップするときょくになる。

交流を通して他者理解につなげる



問い合わせ返して価値理解につなげる



あなたは今回の授業で、どの登場人物の立場から考えてみようと思いますか？
また、その登場人物は、お弁当を（捨てた／捨てられた）ことについて、どんな気持ちでしょう？矢印上のピンを動かしてみましょう。

過去の私



あなたは今回の授業で、どの登場人物の立場から考えてみようと思いますか？
また、その登場人物は、お弁当を（捨てた／捨てられた）ことについて、どんな気持ちでしょう？矢印上のピンを動かしてみましょう。

過去の私



Point! 比較しやすいように可視化

Point! 変容を見取りやすく

■指導と評価の工夫

①問い合わせの設定、選択

* 生徒の言葉を基に複数設定した問い合わせをそれぞれの生徒が選ぶことで問題意識をもちながら内容項目について考えることができる。

②発問「弁当を捨てた／捨てられたことについてどんな気持ちか？」

* 書く活動を精選することで、交流しながら考える時間を確保できる。
* 心情メーターを活用して考え方の違いを可視化することで、目的のある話合い活動ができる。
* 個、ペア、グループなど、対話形態を生徒が必要に応じて選択できるようにしたことで他者理解の深まりにつなげることができる。

③ワークシートの工夫

* 2時間分を1枚のワークシートにまとめ、変容を見取りやすくすることで評価につなげることができる。

■成果(○)と課題(▲)

○ 家族との関わりについて強い不安を抱えていた生徒の授業前後の様子や記述から、家族としての在り方をじっくり考える時間を取れたことで、不安を和らげることができた。

○ 生徒自身が、学びの道筋を選択したり考えたりすることで、意見の食い違いや考え方の違いが明らかになり、交流する必然性が生まれた。

▲ ねらいとする内容項目の理解について取り扱う時間が少なくなってしまい、一部の生徒に学びの深まりが見られなかった。

▲ 学びの複線化を図ったが、授業の中で生徒の学びを全て見取ることが難しい。生徒も教師もこの授業形式に慣れる必要があると感じた。